

平成18年2月23日

施術直前、重篤な心疾患を疑い対処した症例

(社)神奈川県鍼灸師会 小澤 大輔

来院時から著明な息切れを認め、さらに頭重感、眼前がチカチカするなどの症状を訴えた症例である。鍼灸治療の適応ではないと判断し当院で対応できる範囲の診察所見を取り直ちに患者のホームドクターに連絡をした。

精査の結果、生命に関わる心疾患であることが判明したが救命措置を行い、一命をとりとめることができたので報告する。

症例：88歳 女性

初診：平成12年4月28日

主訴：息苦しい。頭が重い。眼がチカチカする。

現病歴：患者は5年来、当院に週1～2回のペースで腰痛予防のため通院している。

本症の発症前の鍼灸治療は平成17年12月31日に行なった。その際、平素と特に変わった様子は無かったが、食欲の低下と易疲労感を訴えた。治療後は徒歩で帰宅した。

平成18年1月6日午前11時に家族に車で送ってもらい来院した。家族から今朝ほど（午前5時頃）胸が苦しいような気がするとの訴えで本人に起こされたという報告があった。しかしその後訴えは無く、朝食は通常通り食べ排尿、排便もあった。ただ、起床時から息が切れているのがよく分かるとのこと。

当院玄関で自・他覚的に息切れが著明で、頭重感と眼の前がチカチカすると訴えた。すぐに診療用ベッドに座らせて迅速に問診・診察を行なった。

また、家族にはその場に待機してもらった。

既往歴：腰痛

家族歴：特記すべきことなし

診察所見：意識状態異常なし。頭重感あり。胸痛・背部痛は無い。浅促呼吸、口すばめ呼吸が診られる。チアノーゼ口唇（-）手・足（±）。体温 36.2℃。血圧 100/60 mmHg。

脈拍数 110。経皮的血中酸素飽和度 (SpO₂) 85%

胸部の打診・聴診では異常は認めない。心電図（家庭用心電図記憶装置）では心拍に異常を認めた（図1）。

診断：著明な息切れ、経皮的血中酸素飽和度、心拍の異常などから心疾患と肺疾患を疑った。

対応：（家族）生命に関わる心臓や肺の病気の可能性があります。このまま医師に連絡を取りますのでこのまま車で病院に連れて行ってください。

（医師）電話にて直接連絡を取り著明な息切れ、経皮的血中酸素飽和度の低下、心拍の異常を強調し優先的に診てもらえるよう対応した。

（本人）いつもの病院に連れて行ってもらい検査を受けていただきます。

考察：本症例を重篤な心疾患または肺疾患と診断した。以下にその理由を述べる。

1. 発症が急であること。
2. 息切れが自・他覚的に著明。（努力呼吸の状態）
3. 経皮的血中酸素飽和度の低下が診られる。
4. 心拍の異常が診られる。

また、本症例では

1. 発熱や咳が無く胸部の打診・聴診で異常音・喘鳴は聴取しなかったこと。
 2. 急激な胸痛・背部痛は無いが心電図において心拍に異常があったこと。
- 上記のことから、どちらかといえば心疾患の可能性が高いことを念頭に置いた。

本症例のように急な発症で著明な息切れを訴える場合は心疾患、肺疾患、心肺疾患以外という軸と発症形式という軸で分けて考えるとよい。

a. 発症は急性か慢性か？あるいは発作性か？

急性であれば気胸、肺塞栓、肺炎など慢性であれば慢性閉塞性肺疾患、心不全、貧血などが、発作性であれば気管支喘息などが疑われる。

b. 随伴症状はないか？

胸痛があれば心筋梗塞、肺塞栓、気胸などが、発熱があれば肺炎などが、喘鳴があれば気道狭窄や気管支喘息などが疑われる。

というように一通り鑑別の知識を整理しておく。

鍼灸臨床の現場では平素このように生命に関わるものが予測される症例に遭遇することは稀であると考えられる。そのため冷静かつ迅速な対応ができるかどうかなかなか自信が持てないところがある。教科書的には上記のように整理できるが臨床症状の教科書的整理のみでは実際の症例には的確な対応が難しい。しかし、鍼灸師の医療レベルでは生命の危機に関わる疾患に遭遇した場合、患者をいかに速く救命のできる医師の元に手渡すことができるかというところまでがポイントで

ある。その点で本症例を臨床症状のみで判断すること以外に家庭用の心電図記憶装置と経皮的血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメーターが有用であったことは言うまでも無い。鍼灸師のレベルでもぜひ診察室に常備しておきたいアイテムである。

最後に本症例で救急車で搬送を行なわなかったのは患者のホームドクターが当院から至近距離だったこと、患者の意識レベルの低下が診られなかったこと、ホームドクターが循環器の専門医であった為さらにレベルの高い総合病院循環器科に紹介が可能であったことが挙げられる。結果的に当院から直接救急車で搬送された場合よりもレベルの高い総合病院に優先的入院することができた。結局、本症例は重度の狭心症（心筋梗塞の一步手前）と診断され心臓カテーテルによつて的確な処置が行われ生命の危機を脱した。

鍼灸師レベルの対応としては妥当であったと考える。

印刷日: 2006/02/16

心電図詳細

個人番号 0 氏名 ガスト 性別 年齢

測定日 2006/01/06

脈拍数 110

心電図コメント 心拍が少し乱れています。一呼吸RR間隔を見、気になる時は医師に相談ください

